

《小学校中学年の部 優秀賞》

「ぼくの弟は発達障害」

有田市立箕島小学校 3年

遠藤 彰真 さん
えんどう しょうま



ぼくの弟の名前はよしきです。よしきは四才です。生まれながら発達障害、自閉症スペクトラムという障害をもっています。まだ、しゃべることができません。さくらんぼという、よしきのような子をたすけてくれるほいく園に通っています。体を動かすためと、しゃべれるようになるため二つのリハビリにも通っています。

自閉症の症じようはいろいろありますが、よしきの場合は、遊んでいる時やごはんの時もクルクル回ったりピョンピョンとびはねたりします。おもちゃや本をほることもあります。特におこったりきげんのわるいときは、とても高くほります。たまに、ぼくの頭に当たるときもあります。たたかれたりけられたりもします。そんな時、ぼくは弟の気がおさまるまでじつとがまんをします。

よしきは時間に、ものすごく正かくです。朝は「おかあさんといっしょ」が終わると、くつをはいてさくらんぼのおむかえをまつために外に行こうとします。また、おじいちゃんの仕事から帰ってくる時間になるとばんごはんを食べるためにつくえを出そうとします。その後、七時半から八時くらいになるとおふろに入ろうとします。

ほかにもよしきの中でルールがあります。リハビリが終わると、びょういんの自動はんばいきで、りんごジュースを買わないとおこります。ばんごはんは、外食だといやがるので、家で食べるようにしています。

よしきがすきなおかしやおもちやを買ったお店に行くと、また買ってもらえると思っておかしやおもちやを持ってこようとします。

よしきはしゃべることができないけれど、何かがほしい時は手をひっぱってそこへつれていってくれます。でも、ときどき、どれがほしいかわからない時があるので、家族みんなで考えますが、そんな時よしきはわかってもらえなくておこっています。わかってもらえた時は、ピョンピョンとびはねてえ顔でよろこびます。ぼくは、ほっとします。よしきがよろこぶとぼくもうれしいです。

よしきが、ぼくにだきついてくる時があります。その時は、いっしょに遊びたかったり、うれしかったりする時だと思います。よしきがいっしょしゃべれるようになるかわかりませんが、早く話もしたいし、「お兄ちゃん」とよんでほしいです。よしきは、多分せんもんの学校に行くと思うので、いっしょに小学校に行けないのはさびしいです。

障害があっても、よしきは、ぼくの大切な弟です。これから、いっしょに遊んであげたり、本を読んだりしたいです。よしきがりっぱな大人になれるように、家族みんなで力を合わせていきたいです。